



日本シイエムケイ株式会社  
(証券コード：6958)

# 2023年3月期 第2四半期 決算説明会資料

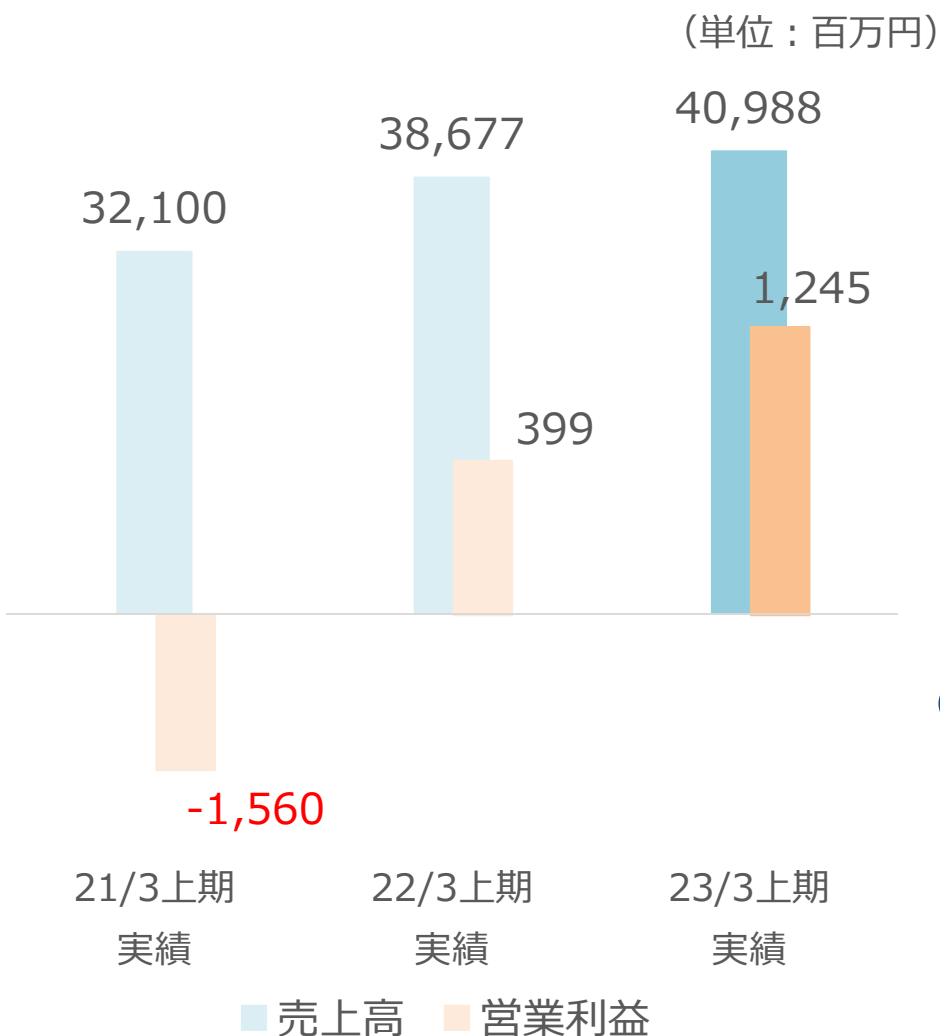
2022年11月8日

日本シイエムケイ株式会社

1. 2023年3月期上期 連結業績
2. 2023年3月期 連結業績見通し
3. 中期成長戦略
4. 補足資料

# 1. 2023年3月期上期 連結業績

## ①決算のポイント



- グローバルでの自動車生産台数が低調に推移したものの、注力分野のパワートレイン・走行安全系向けの販売が増加し、売上高は増加
- 生産効率化や為替変動等の影響により、営業利益は改善

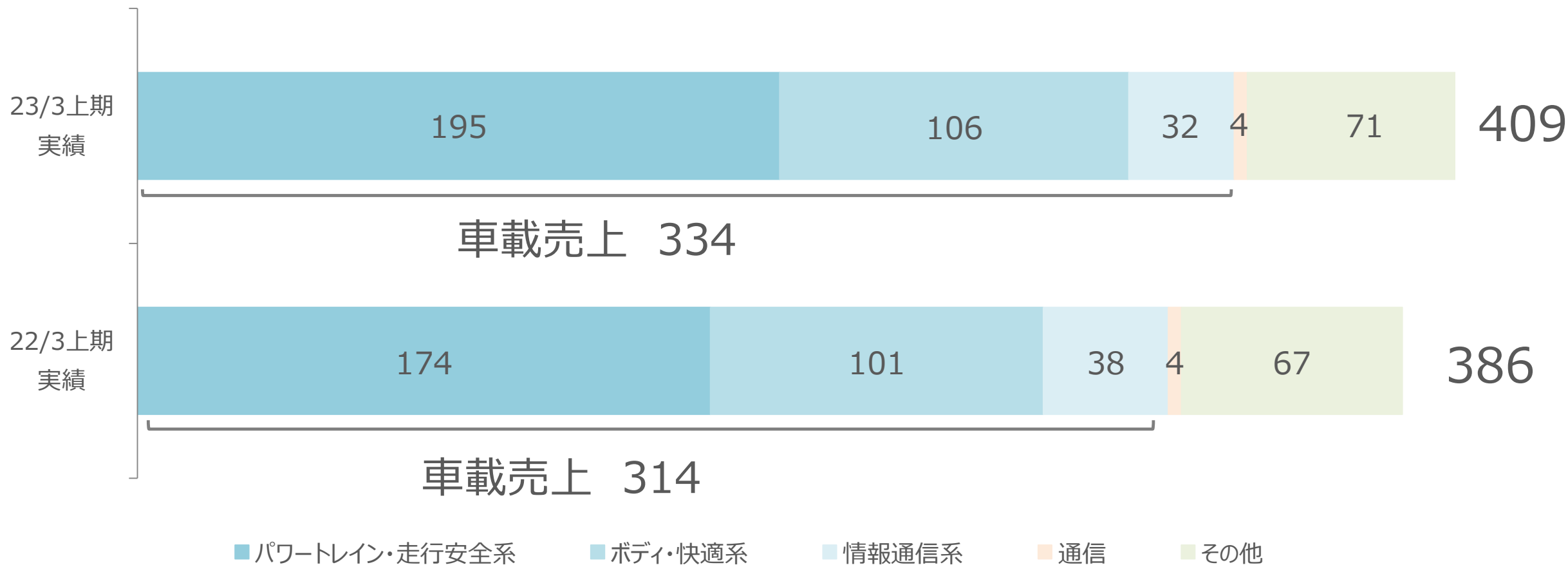
## ②連結損益

(百万円)	22/3期 上期	23/3期 上期	増減額	増減率
売上高	38,677	40,988	+2,311	+6%
営業利益	399	1,245	+846	+212%
率	1.0%	3.0%	+2.0%	-
経常利益	107	1,552	+1,445	-
当期純利益	13	1,068	+1,055	-
平均為替レート (USD/JPY)	108.47	124.54	+16.07	+15%

※「親会社株主に帰属する当期純利益」を「当期純利益」として記載

# ③用途別売上高

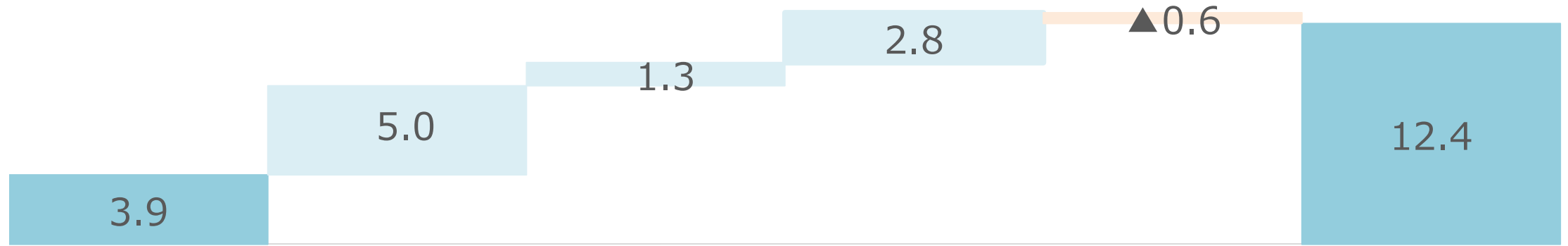
(単位：億円)



- 車載向け売上高は、注力分野のパワートレイン・走行安全系向けの販売が回復し、前期比12%増加

# ④ 営業利益増減分析

(単位：億円)



22/3上期  
営業利益  
(実績)

売上増による  
利益増

歩留まり  
生産性向上

為替変動影響

売価  
材料価格上昇等

23/3上期  
営業利益  
(実績)

## 2. 2023年3月期 連結業績見通し



# ① 連結損益

(百万円)	23/3期 上期実績	23/3期 下期見通し	23/3期 通期見通し
売上高	40,988	41,012	82,000
営業利益 率	1,245 3.0%	1,755 4.3%	3,000 3.7%
経常利益	1,552	1,348	2,900
当期純利益	1,068	1,032	2,100
平均為替レート (USD/JPY)	124.54	135.00	133.00

※「親会社株主に帰属する当期純利益」を「当期純利益」として記載

# 3. 中期成長戦略

# 中期経営計画\_骨子 (再掲)



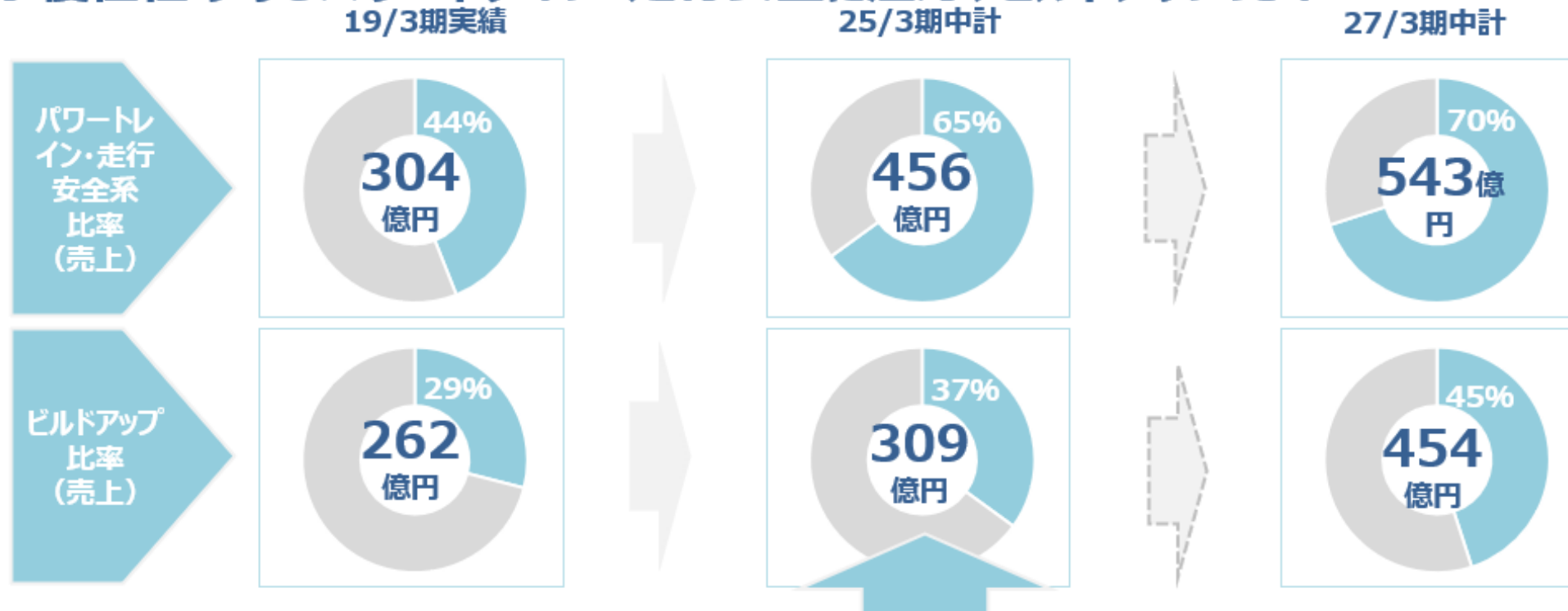
第1次中期経営計画 (2023/3月期～2025/3月期)	第2次中期経営計画 (2026/3月期～2027/3月期)
<p data-bbox="198 425 1480 535">収益基盤の確立、成長への仕込み</p> <ul data-bbox="231 578 1378 915" style="list-style-type: none"> <li>・事業構造改革による生産効率化</li> <li>・車載製品ポートフォリオの高付加価値シフト (プロダクトミックス改善)</li> <li>・新規事業領域への仕込みと事業化加速</li> </ul>	<p data-bbox="1651 429 2328 535">成長加速</p> <ul data-bbox="1600 578 2328 821" style="list-style-type: none"> <li>・CASE需要の取込みによる成長サイクルの確立</li> <li>・新規事業領域の取込み</li> </ul>

車載製品ポートフォリオの高付加価値シフトにより安定的な収益構造を構築  
 ⇒安定的な収益構造をベースに、CASE需要を取込み、成長サイクルの確立

# 中期経営計画\_高付加価値シフト (再掲)



車載製品ポートフォリオの高付加価値シフトによるプロダクトミックス改善による収益性向上  
 ⇒競争優位性のあるパワートレイン・走行安全に注力、ビルドアップ比率UP



## 生産体制のモデルチェンジ

- ・タイ工場のビルドアップ生産比率の引き上げ、中国工場のファイン化
- ・汎用車載プリント配線板のファブライト化推進

\*ファブライト化：製造を外部委託すること (OEM)

<p><b>C</b></p> <p><b>Connected</b> 5G通信との連携</p> <p>ネットワークとつながることで、自動車とIoT社会との連携が始まる。</p> <p>▶ <b>新規事業領域の技術とコラボレーション</b></p> <p>&lt;ターゲットアイテム&gt; 通信モジュール(セルラー)、衛星測位システム・狭域通信モジュール、DCM(データコミュニケーションモジュール)、アンテナモジュール など</p>	<p><b>A</b></p> <p><b>Autonomous</b> 情報収集による自動運転化</p> <p>自動運転社会の到来で、安心・安全・便利が深まる</p> <p>▶ <b>統合ECUに向けた次世代車載PCBの供給</b></p> <p>&lt;ターゲットアイテム&gt; 統合ECU、カメラモジュール・画像センサー、ミリ波レーダー・LiDAR、自動ブレーキ、ドライバーサポートシステム など</p>
<p><b>S</b></p> <p><b>Shared &amp; Service</b> 自動車の利活用変化</p> <p>所有から利用へ広がることで、自動車が様々なサービスの土台となる。</p> <p>&lt;ターゲットアイテム&gt; スマートキー、非接触充電器 など</p>	<p><b>E</b></p> <p><b>Electric</b> 省エネ/環境への対応</p> <p>HEV→EV→FCVと進むことで、自動車がエネルギーエコシステムの一翼を担う</p> <p>▶ <b>競争優位性のある事業領域として車載製品ポートフォリオの柱</b></p> <p>&lt;ターゲットアイテム&gt; インバーター・DC-DCコンバーター、パワーコントロールユニット(PCU)、HEV/EV系ECU、駆動用二次電池(バッテリー) など</p>

# タイ新工場建設



CASE需要取り込による成長サイクルの確立を実現する為、タイに新工場を建設し、生産能力を拡大

## 工場概要

所在地 : タイ王国 プラチンブリ県  
延床面積 : 約102,000㎡  
生産品目 : ビルドアップ配線板、多層プリント配線板  
投資額 : 約250億円 (第一期投資)  
稼働開始 : 2024年8月より順次 (予定)



## 生産コンセプト

- ・車載製品ポートフォリオの高付加価値シフト (ビルドアップ生産比率の向上)
- ・大判化による生産性向上及び自動化による省人化・歩留まり向上 ⇒コスト競争力強化
- ・フィルム使用工程を無くし、サステナブルな工場へ

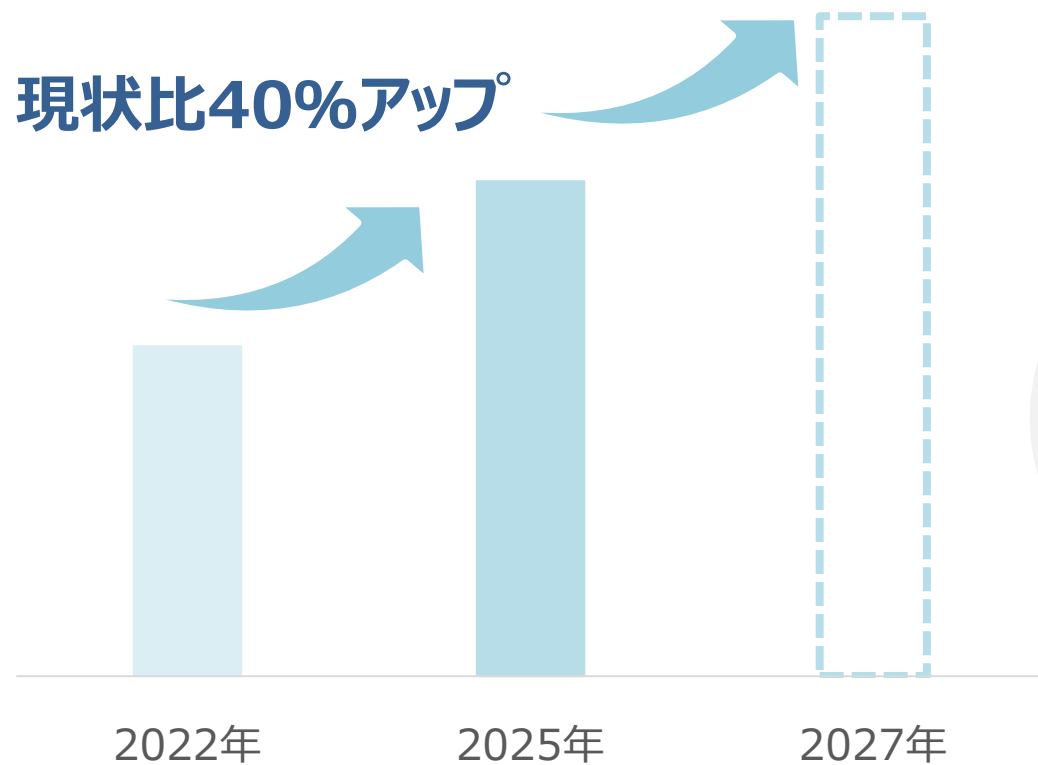


# タイ新工場建設\_売上寄与のイメージ



## 売上高

現状比80%アップ°

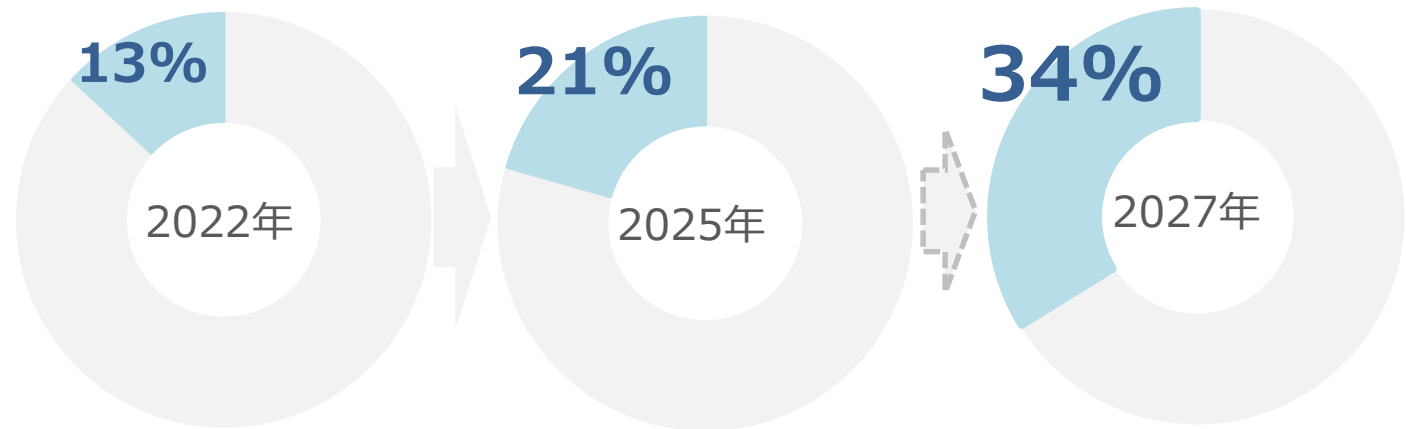


第1期投資

第2期投資

## 基板種類別構成比率

ビルドアップ生産比率アップ°



第1期投資

第2期投資



# サステナビリティへの取り組み

- 第一次中期経営計画における生産効率化の設備投資資金として  
2022年9月30日に「Mizuho ポジティブ・インパクトファイナンス」による資金調達を実行
- SDGs 目標達成に向けた K P I を設定し活動を推進

インパクト	KPI	目標・方針	SDGs	インパクト	KPI	目標・方針	SDGs
移動手段（ポジティブ）	電動車向けの売上比率	2023 年度：目標設定実施 (注 1)		健康・衛生、雇用	重大事故発生件数	毎年度：0 件の継続	
移動手段（ネガティブ）	走行安全系向け製品売上高比率	2027 年度：30%以上		包括的で健全な経済	女性管理職比率	2022 年度：3.3%を上回る	 
気候	CO2 排出量削減率（スコープ1、2）（基準年：2013 年度）（同社グループ）	2030 年度：46%削減	 		障がい者雇用率	毎年度： 法定 2.3%を上回る障がい者雇用率達成	
水、大気、土壌	EHS 管理監査の実施	毎年度： 1 社以上に対して実施(注 2)	 	人格と人の安全保障	人権デューデリジェンスの実施	2023 年度： 人権デューデリジェンスの実施	
	環境汚染事故件数	毎年度：0 件の継続			<p>(注1) 本指標については、現在実績値の把握のための体制を構築中です。体制構築後、目標設定までの期間は実績値をモニタリングし、取り組み状況の評価いたします。</p> <p>(注2) 本項目に関するモニタリング時には、対象の取引先企業における適正なEHS管理の実現に向けて、日本シイエムケイグループが対話を通じたコミュニケーションを図っていることへの評価を行います。</p>		
資源効率・安全性、廃棄物	ゼロエミッション率	毎年度：100%に向けた活動の継続					

\* ポジティブ・インパクトファイナンスの概要はHP参照

<https://www.cmk-corp.com/topics/topics000487.html>



# 3. 補足資料

## ①用途別売上高



	(億円)	22/3期 上期	23/3期 上期	増減額	増減率	23/3期 見通し
車載		314	334	+19	+6%	697
車載内訳	パワートレイン・走行安全系	174	195	+20	+12%	415
	ボディ・快適系	101	106	+4	+5%	228
	情報通信系	38	32	-6	-16%	54
通信		4	4	-0	-11%	13
その他		67	71	+4	+6%	110
合計		386	409	+23	+6%	820

※「その他」：AV・デジタル家電、デジタルカメラ、アミューズメント、その他

## ②基板種類別売上高



(億円)	22/3期 上期	23/3期 上期	増減額	増減率	23/3期 見通し
ビルドアップ配線板	98	99	+0	+1%	225
多層プリント配線板	209	232	+23	+11%	445
両面プリント配線板	53	50	-3	-6%	100
その他	26	28	+2	+8%	50
合計	386	409	+23	+6%	820

## ③地域別業績



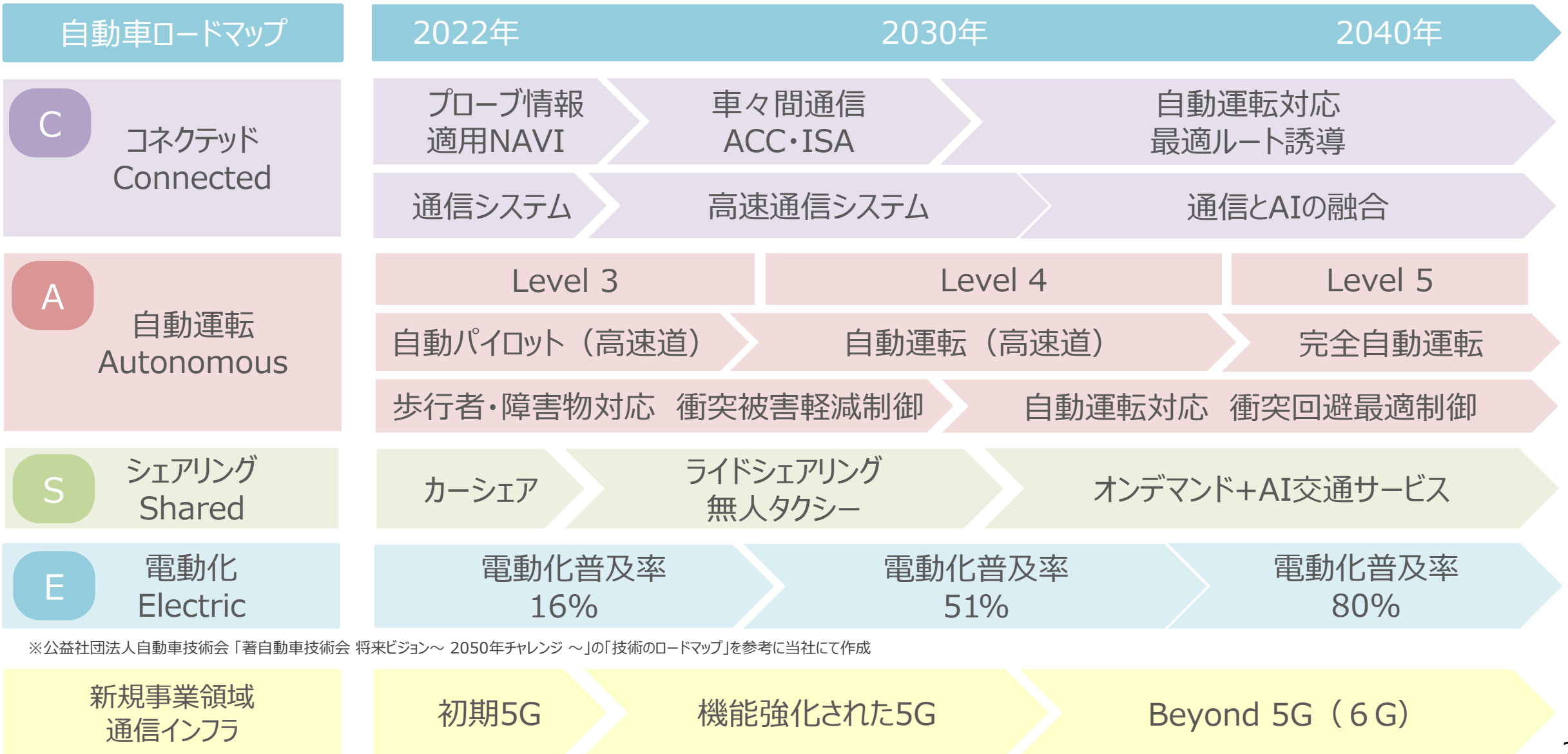
(億円)		22/3期 上期	23/3期 上期	増減額	増減率	23/3期 見通し
日本	売上高	234	235	+1	+1%	480
	営業利益	8.2	3.1	-5.0	-61%	8.0
中国	売上高	139	167	+28	+20%	325
	営業利益	-1.2	7.8	+9.1	-706%	16.0
東南アジア	売上高	115	144	+28	+24%	279
	営業利益	0.4	8.0	+7.5	-	15.0
欧米	売上高	20	19	-0	-2%	36
	営業利益	0.8	0.8	-0.0	-1%	1.0
消去又は全社	売上高	▲122	▲156	-34	+28%	▲300
	営業利益	▲4.2	▲7.4	-3.2	+75%	▲10.0
連結	売上高	386	409	+23	+6%	820
	営業利益	3.9	12.4	+8.4	+212%	30.0

## ④設備投資



(億円)	22/3期 上期	23/3期 上期	増減額	23/3期 見通し
国内	23	9	-14	30
海外	12	15	+3	33
連結	35	25	-10	63
減価償却費	20	23	+2	46

# ⑤-1.CASE自動車及び新規事業領域のロードマップと対応状況




※公益社団法人自動車技術会「著自動車技術会 将来ビジョン～ 2050年チャレンジ ～」の「技術のロードマップ」を参考に当社にて作成

※総務省「Beyond 5G推進戦略 -6Gへのロードマップ-」を参考に当社にて作成

# ⑤-2.CASE自動車及び新規事業領域のロードマップと対応状況



市場の要求	アイテム	基板への要求	当社の技術革新
<p><b>C</b>  <b>コネクテッド Connected</b></p>	<p>通信モジュール 5G,V2X エン터테인먼트 IVI</p>	<p>低損失 SoCプロセッサ搭載</p>	<p>低誘電材、特性インピーダンス制御 多段HDI、微細回路 MSAP</p>
<p><b>A</b>  <b>自動運転 Autonomous</b></p>	<p>ミリ波レーダー センシングカメラ</p>	<p>アンテナ回路精度安定 小型化、3次元</p>	<p>高精細回路形成 MSAP 多段HDI、高板厚リジッドフレックス</p>
<p><b>S</b>  <b>シェアリング Shared</b></p>	<p>車載AI搭載 インフラ向けユニット</p>	<p>AIプロセッサ搭載 高多層、小径VIA</p>	<p>低誘電材、特性インピーダンス制御 多段HDI、高アスペクト</p>
<p><b>E</b>  <b>電動化 Electric</b></p>	<p>統合ECU パワーモジュール</p>	<p>制御回路と電源の混在 大電流、高電圧、耐熱</p>	<p>厚銅回路、内層銅コア、高放熱材 高絶縁レジスト、放熱シミュレーション</p>
<p> <b>新規事業領域 通信インフラ</b></p>	<p>5G高速通信 基地局スモールセル</p>	<p>高多層、低損失 高密度、微細配線</p>	<p>低誘電材、高多層、高アスペクト サブトラ微細配線、バックドリル</p>

# ⑥技術ロードマップ



## 当社の革新技术

第1次中期経営計画

第2次中期経営計画

22/3期

23/3期

24/3期

25/3期

26/3期

27/3期

C



高密度

多段HDI BVHスタック

多段HDI AnyLayer

微細回路 MSAP

量産中

試作

量産

開発

試作

量産

A



高機能

高精細回路 MSAP

高板厚リジッドフレックス

試作

量産

開発

試作

量産

S



高周波

低損失

特性インピーダンス制御

開発

試作

量産

±10%(実測管理)

±10%(工程保証)

シミュレーション保証

E



高放熱

厚銅 + 信号回路

高熱伝導

開発

試作

量産

開発

試作

量産



高多層

高アスペクト (Aspect Ratio)

サブトラ微細配線

AR12

AR21

AR24

開発

試作

量産



本資料における将来情報は、2022年11月時点での見通しであり、  
その実現を保証するものではありません。

(金額は切捨て、%は小数第二位を四捨五入にて表示)

END